



# しびき



## CONTENTS

10	9	8	4	3	2	1
2022年出荷実績	ICDM役員会	パール委員会のSDGs活動	TOKYO PACK 2022出展報告	識者による講演会	経済産業省製造産業局金属課長年頭挨拶	ドラム缶工業会理事長年頭挨拶



## ドラム缶工業会 那須七信 理事長 年頭挨拶



### 冒頭

新年あけましておめでとうございます。  
昨年引き続き本年もコロナ禍により賀詞交歓会を中止いたしました。行政、会員各社、関係団体の皆様と一堂に会し、新年のご挨拶を交わすことができず誠に残念ですが、会報を通じて年頭のご挨拶を申し上げます。

### 2022年の振り返り

昨年はコロナ禍も3年目となり、ウィズコロナ生活にも慣れ、我が国の経済も内需主導で緩やかに持ち直す一年でした。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や海外でのインフレ拡大、円安の急速な進行など、先行きの不透明感が日毎に拡大する一年でもありました。

2022年の出荷本数は、ゼロコロナ政策を推進する中国経済の低迷や、半導体や部品不足で自動車生産の回復が進まない影響などを受け、鋼製新缶ドラム1,334万本(前年比▲6.4%)、鋼製パール缶1,853万缶(前年比▲2.4%)と減少しました。また、鋼材価格の高騰が、一昨年に引き続き進展しました。安全面については、労災発生件数が一昨年までの増加傾向から半減レベルとなり、各社での安全活動の成果が功を奏してきたものと拝察します。

### 2023年の展望

2023年については、昨年の景況感が継続するものと思われます。鋼材やエネルギーその他原材料価格の動向にも引き続き注視が必要です。また、中期的な課題であるカーボンニュートラルへの対応については、現状の調査・分析からスタートし具体的な活動に繋げていく必要があります。

このような環境において、当工業会としては、以下のような観点から会員各社に対するサポートを実施していこうと思います。

### 個々の課題

#### (1) 安全活動

ドラム缶・パール缶製造は、近接作業、ライン稼働中の作業が特徴であり、安全活動の基本である「止める・離れる・足場の確認」の徹底が必要です。昨年は休業災害が発生せず全体の発生件数においても日頃の安全活動の成果が出てきています。さらに進化していくために、当工業会としてはリモート会議などを含めて他社事例を最大限に活用しながら安心して働ける職場作りを支援してまいります。

#### (2) SDGsへの取り組み

昨年もSDGsを講演会のテーマに取り上げ、当工業会でもドラム缶とSDGsのひも付けを行うなど、従来のSDGs1.0は浸透してきたものと考えます。これからは会員各社が具体的な取り組みを進めていくSDGs2.0の段階となりますので、事例や情報の共有化などを検討していきたいと思っています。

#### (3) コンプライアンス活動

独占禁止法に関する勉強会は定例会として定着し、昨年は会場とリモートを併用するハイブリッド開催で営業部門の皆さんも参加しやすい大変盛況な勉強会になりました。さらに内容を充実させ、継続してまいります。

#### (4) 社会的認知度の向上

ドラム缶の特長の宣伝や業界の認知度向上を目的として、「性能試験」「UNマーク」「3Rの優等生」「総集編」の4種類の動画を制作しホームページにアップしました。また、2022東京国際包装展(TOKYO PACK 2022)へ出展し、当動画の放映や実物の展示で、産業容器としての優位性について周知・理解を図りました。引き続き広報活動・情報発信に力を入れていきます。

#### (5) 国際活動の活性化

残念ながら、コロナ禍で対面での交流はできていませんが、リモート会議の活用により国際連携を維持しています。課題の一つであった国内外の基準の整合性向上(鋼製ドラム用口金)について、昨年のISOの改正に反映することができました。またアジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会(AOSD)国際会議は2019年以来開催を延期しておりますが、再開に向けて準備を進めてまいります。

### 最後に

最後になりますが、本年が会員各社の皆様、ご家族、そして当工業会にとって実り多い一年となりますことを祈念し、私の年頭の挨拶といたします。

経済産業省 製造産業局 金属課長 松野 大輔様

## 年 頭 挨拶



### はじめに

令和5年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。また、昨年は経済産業行政に対する深いご理解と格別のご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

我が国にとって、ドラム缶業界をはじめとする金属産業は幅広い産業を支えるものづくりの屋台骨です。しかし、足元では資源高や円安等により、厳しい向かい風を受けています。

特に昨年は、ロシアによるウクライナ侵略によって、世界のエネルギー事情が一変し、グローバルなエネルギー需給構造に大きな地殻変動が生じました。そのような中で、我が国は、足元の危機克服とサプライチェーンの強靱化とともに中長期的な課題であるGX推進に向けて併行して取り組んでいく必要があります。

### 2050カーボンニュートラルの実現

気候変動対策は地球規模で取り組まれるべき世界の最重要課題の一つです。我が国の産業部門のCO<sub>2</sub>排出のうち、鉄鋼業は約40%を占めており、CO<sub>2</sub>排出量削減は喫緊の課題となっております。「水素還元製鉄」技術を開発、確立し、社会実装に繋げていくために、グリーンイノベーション基金による支援を開始しています。引き続き、製鉄プロセスの脱炭素化を実現するための研究開発を一層加速化すべく取り組みを強化していきたいと考えております。

また、資源小国の我が国においては、鉄鋼分野のみならず多様な金属分野において、資源の確保やリサイクルを含む資源循環経済を確立することも重要です。例えば、鉄源としての鉄スクラップの確保・活用、アルミスクリップを自動車の車体等にも使用可能な素材へとアップグレードリサイクルできるようにするための基盤技術の開発など、今後も取り組みを続けてまいります。

### 経済安保

ウクライナのみならず世界中あらゆる場所で、国家間の緊張が高まっています。しかし、それらが与える影響は軍事的な側面だけではありません。サプライチェーン上の

脆弱性の顕在化や、サイバー攻撃等の脅威の増大、先端技術を巡る覇権争いの激化といった動きが見られ、経済活動においても緊張が急速に高まっています。

こうした情勢を受け、昨年5月に経済安全保障推進法が成立しました。また、重要物資の生産基盤の整備や供給源の多様化等を後押しすべく、9,000億円を超える予算を措置しています。このような取り組みを通じ、日本の経済構造の自立性を向上させ、技術の優位性を高めることによる強化を目指してまいります。こうした中で、電動車や風力発電設備など今後世界的に需要拡大が期待されるグリーン製品の性能を決定づける永久磁石についてもサプライチェーンの強化、研究開発の加速、リサイクルの推進といった様々な取り組みを後押ししていく方針です。

### 下請等取引適正化

昨年は、ロシアによるウクライナ侵略等による歴史的な資源価格の高騰が生じ、原燃料価格の転嫁が金属産業の取引において大きな課題となる中、サプライチェーン全体での取引適正化や、取引条件の改善も一層重要な課題となっております。

経済産業省としても、昨年に見直しを行った「金属産業取引適正化ガイドライン」を通じて、望ましくない取引慣行の是正や、働き方改革に伴うしわ寄せ防止などに向けた取り組みを精力的に進めてまいりました。

本年も、関係業界の皆様と連携しながら、個別企業の皆様への「パートナーシップ構築宣言」の働き掛け等を通じ、金属産業をはじめとする製造業全体での生産性向上に向け、一層取り組みを進めてまいります。

### おわりに

本年も経済産業省としては、皆様とも連携しながら、我が国金属産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。

末筆ながら、本年のドラム缶業界の皆様のご健康と御多幸を、そして我が国金属産業の着実な発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 持続可能な社会に向けて中小企業経営者が考えなければいけないこと

大学院大学至善館 教授／幸せ経済社会研究所 所長／株式会社 未来創造部 代表取締役社長  
枝廣 淳子様



ドラム缶工業会は2019年から、環境対応、持続可能な社会の形成、SDGsへの理解を深めることに特化した会員向けの講演会を継続して開催しています。

昨年10月27日には、大学院大学至善館 教授、幸せ経済社会研究所 所長、株式会社未来創造部 代表取締役社長の枝廣淳子氏をお迎えしました。コロナ禍が徐々に明ける中で、鉄鋼会館での会場参加とリモート参加を合計し82名の出席がありました。

今回の講演会では、まず「持続可能な社会とは？企業にとっての意味」をあらためて示していただきました。現代は気候変動、戦争や紛争、経済の疲弊、人口減少、エネルギー危機、プラスチック汚染と資源枯渇といった持続不可能性の兆しがどんどん表れています。企業は社会の求めるものに応える限りにおいて存続でき、時代や社会の要請に対応しているかによって企業が選別される時代であることが提起されました。

次に「SDGs1.0からSDGs2.0へ！」として、SDGsの17の目標を再確認する中で、新たに何に取り組むのかを考えなければいけない。自社や業界の中に閉じてはならず、他業種や地域社会、NGOなどの他のセクターとの連携、共創が重要な視点になることを知りました。最も切迫した地球環境問題に実感はあるかと問われ、日本だけでなく世界で起きている気象災害、気温と海面の上昇について説明

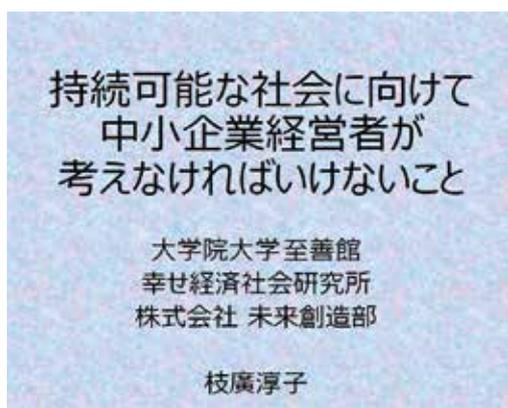
されました。

2015年のパリ協定に始まる具体的な課題、カーボンニュートラルへの各国のCO<sub>2</sub>削減目標、そもそもCO<sub>2</sub>はどこから出ているのか、エネルギーが鍵であり化石燃料との決別と再エネの最大活用が論じられました。

その中で、枝廣氏が直接関わっている熱海の海洋でのブルーカーボンプロジェクト、また植林、森林での炭素の「固定化」とバイオ炭の取り組み、容器包装プラスチックと海洋プラスチック問題の経緯が紹介され、資源循環の促進、海外に見る循環経済法が説明されました。

最後に、ドラム缶工業会、ドラム缶事業者へ期待することとして、社会への発信、連携・共創を深め、ドラム缶での社会課題の解決提案と次世代育成が提案されました。

活発な質疑応答が行われ、行動を起こさなければいけないことへの理解が進みました。出席者からは、学者や評論家目線ではなく市民目線で取り組みを続けて来られた方ならではの話が伺えてよかった。ドラム缶、ペール缶が3Rや環境対応に優位な製品だというだけでなく、次に何をやらなければならないか、自問自答しなければならぬ。具体的に何に手を付け、それを企業経営とどう繋げていくか。業界団体として考えることと各社が個別に進めること、これらを常に考え、前進していかなければいけないことを自覚したとの声が多く寄せられました。



講演会資料



講演会風景

# TOKYO PACK 2022に出展しました



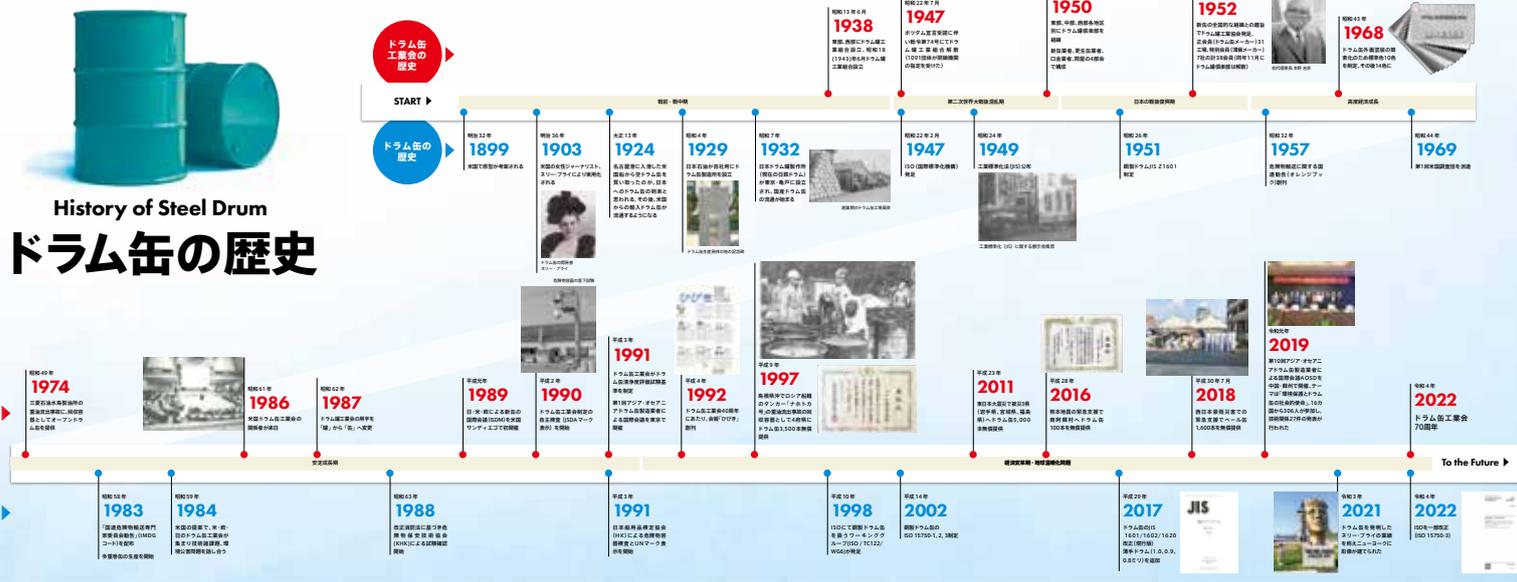
ドラム缶工業会は、産業容器としての鋼製ドラム缶の優位性をもう一度見直していただくために、初めての試みでしたが、(公社)日本包装技術協会が10月12日～14日に東京ビッグサイトで開催した2022東京国際包装展(TOKYO PACK 2022)に出展しました。TOKYO PACKは2年に1度開催される、包装容器を製造する人と使用する人に向けた日本最大のビジネス展示会で、今回は3日間でのべ5万3千人の入場者を迎えたとのことでした。

ドラム缶工業会の展示では、実物や映像で、その特長と有用性、鋼製ドラム缶と環境保全、SDGsとの関係をご理解いただけたものと思います。またドラム缶を利用した楽器、スチールパンの演奏も行い、好評をいただきました。

その展示内容を以下にご紹介します。

## 1 ドラム缶の歴史

ドラム缶は1903年に米国で有名な女性ジャーナリストのネリー・ブライにより発明されました。以来120年近く、その姿を大きく変えることなく現代でも広く流通しています。(2022年9月にはドラム缶工業会設立70周年を迎えました。)その背景と特に昨今の環境問題で見直されている理由につき次項で見えていきます。



## 2 ドラム缶とSDGs

「ドラム缶は地球を守ります—ドラム缶はSDGsの実現に最適な産業容器です」と題し、危険物に対するドラム缶の安全性能、3R (リデュース、リユース、リサイクル) の優等生であること、重金属フリー化や推奨14色による廃棄溶剤やVOCの削減、海外のドラム缶工業会との交流を説明し、ドラム缶とSDGsターゲットのひも付けを紹介しました。(7ページに掲載)

当工業会のホームページにも掲載されています。右の二次元コードからご覧ください。



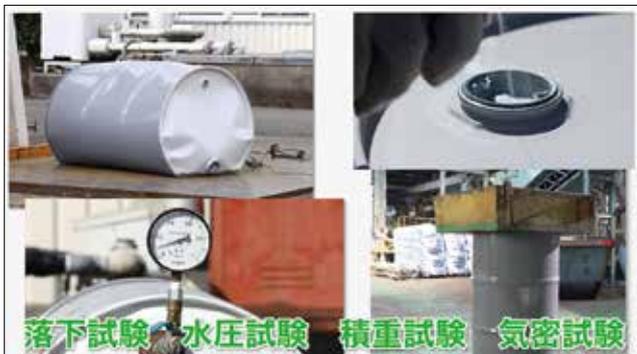
### 3 ドラム缶の有用性を紹介するショートビデオ

展示物に加え、ドラム缶の有用性を動画で確認していただくために、いずれも2～3分前後の4本のショートビデオを制作し、4台の大型モニターで同時に見ていただきました。

これらのショートビデオは下記の二次元コードやURLからもご覧いただけます。

#### ① ドラム缶の性能試験

国連が定めた、落下、水圧、積重、気密試験の実際



<https://www.youtube.com/watch?v=Ppg-uVaDX7Q>

#### ② UNマーク

国連が定める国際的な基準を満たしている、世界共通の危険物用容器



<https://www.youtube.com/watch?v=kZizZ6uluPU>

#### ③ 3Rの優等生

循環型社会の実現に貢献し環境を守る  
(特にリユースが最大の特長)



<https://www.youtube.com/watch?v=4sX2EQ-DTak>

#### ④ ドラム缶の有用性の総集編

ドラム缶は地球環境を守ります



[https://www.youtube.com/watch?v=7flhudOV6\\_8](https://www.youtube.com/watch?v=7flhudOV6_8)

### 4 展示物

タイトヘッド、オープンヘッドのドラム缶に加え、板厚を薄くした軽量型を展示したほか、縦に切り取った断面でカシメ部の状態や、内面の高い清浄度を紹介しました。また推奨14色の実物を3リットルの小型缶でご確認いただきました。



## 5 来場者アンケート

ドラム缶の展示ブースでアンケートを実施しました。

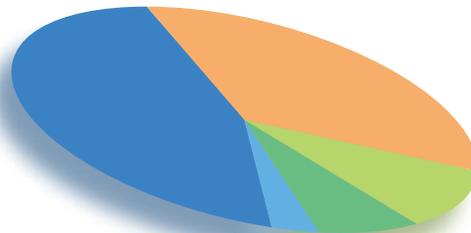
今回の展示を通じてドラム缶がもたらす地球環境へのメリットを知っていただき、ドラム缶がより普及していくことを願っています。

Q. ドラム缶工業会の展示を見ていかがでしたか



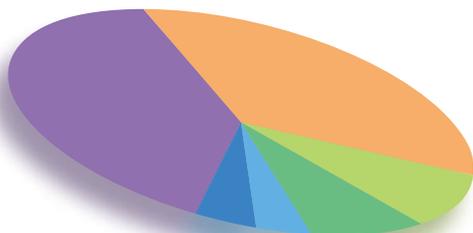
- ：ドラム缶が環境問題に役に立つことが分かった。
- ：概ね知っていることだった。
- ：もっと掘り下げた内容が知りたかった。
- ：綺麗な展示ブースなので立ち寄った。  
ドラム缶のことを初めて学んだ。

Q. ドラム缶を扱ったことがありますか

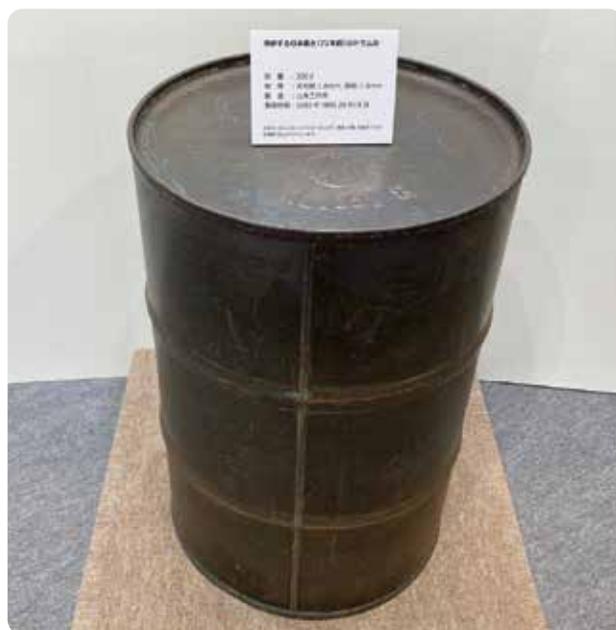


- ：現在、取り扱っている。
- ：取り扱ったことはないが、興味を持った。
- ：取り扱ったことはなく、今後も予定はない。
- ：以前、取り扱ったことがある。
- ：綺麗な展示ブースなので立ち寄った。  
ドラム缶のことを初めて学んだ。

Q. 他の容器との違いは分かりましたか



- ：他の容器に比べて、リユースに特長があることが分かった。
- ：国連で定めた、世界共通の容器であることが分かった。
- ：ドラム缶の内面の清浄度の高さに興味を持った。
- ：ドラム缶にも軽量型があることに興味を持った。
- ：リユースにはあまり関心がない。
- ：綺麗な展示ブースなので立ち寄った。  
ドラム缶のことを初めて学んだ。



現存する日本最古(72年前)のドラム缶

## 6 スチールパンの演奏会

カリブ海で生まれたスチールパンの、プロ演奏家グループ「スチールパン オーケストラ PAN NOTE MAGIC」を迎えました。迫力のある演奏で、会場に華を添えていただき好評でした。

スチールパン オーケストラ PAN NOTE MAGIC  
公式ホームページ

<http://www.pannotemagic.com/>



# ドラム缶とSDGsターゲットのひも付け

項目	内容	ゴール	ターゲット	
世界共通の産業用容器	 全世界で流通	 9	9.1 <b>経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する</b> すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する。	
		 12	12.5 <b>廃棄物の発生を大幅に削減する</b> 2030年までに廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	
	 世界標準に 基づく安全性の高い容器	・国際連合の基準をはじめ国内外の規格に準拠し、耐久性・耐火性に優れた容器として危険物の安全輸送、保管・貯蔵手段として高い信頼を得ている。	 14	14.1 <b>海洋汚染を防止・削減する</b> 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。
3Rの優等生	 資源の有効活用   循環型社会の 形成への貢献	【Reduce】 ・200L鋼製ドラム缶は省資源を実現するリデュース(薄手化)のニーズに対応した製品を取りそろえている。	 9	9.4 <b>資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大により持続可能性を向上させる</b> 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取り組みを行う。
		【Reuse】 ・ドラム缶は、一度使用されたあと複数回リユース(再使用)が可能で、他素材容器(プラスチック、木材、ガラス、紙など)に比べ大きな特長となっている。	 12	12.2 <b>天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する</b> 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
		【Recycle】 ・最終の使用後はスクラップ回収され、鉄鋼原料としてリサイクル(再生利用)されている。  ・リユース比率は約60%、資源としてのリサイクル比率は実質100%となっている。	 12	12.5 <b>廃棄物の発生を大幅に削減する</b> 2030年までに廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
			 13	13.1 <b>気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化</b> 気候関連災害や自然災害に対する強靱性と適応能力を強化する。
		 13	13.3 <b>気候変動対策に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する</b> 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。	
環境保全への取り組み	 環境への影響を 最小限に抑えた 製品開発   製造工程における 環境負荷低減の ための設備投資、 操業技術改善	 6	6.3 <b>様々な手段により水質を改善する</b> 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用を世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。	
		 7	7.3 <b>エネルギー効率の改善率を増やす</b> 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。	
		 11	11.6 <b>大気や廃棄物を管理し、都市の環境への悪影響を減らす</b> 2030年までに、大気や廃棄物の管理し、都市の環境への悪影響を減らす。2030年までに、大気や廃棄物の管理し、都市の環境への悪影響を減らす。	
		 12	12.4 <b>化学物質や廃棄物の適正管理により大気、水、土壌への放出を減らす</b> 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じて、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。	
		 13	13.3 <b>気候変動対策に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する</b> 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。	
社会との共生	 サプライチェーンへの 貢献   グローバルパートナー シップの構築	 9	9.1 <b>経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する</b> すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する。	
		 13	13.b <b>気候変動関連の効果的な計画策定と管理のための能力を向上するメカニズムを推進する</b> 後発開発途上国、小島嶼開発途上国、女性や青年、地方及び社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てることを含め。	
	・ドラム缶工業会は鋼製ドラム缶の国際組織(欧・米とのICDM、アジアでのAOSD)の一員として、民間レベルでの国際交流、情報交換・共有を行い、ドラム缶の利便性や環境保全のさらなる向上のための活動に努めている。  ・日本国内だけでなく、海外も含めいろいろな業界のパートナーとしてつながっていくことを目指している。	 17	17.6 <b>科学技術イノベーションに関する国際協力を向上させ、知識共有を進める</b> 科学技術イノベーション(STI)及びこれらへのアクセスに関する南北協力、南南協力及び地域的・国際的な三角協力を向上させる。また、国連レベルをはじめとする既存のメカニズム間の調整改善や、全世界的な技術促進メカニズムなどを通じて、相互に合意した条件において知識共有を進める。	

# ペール委員会のSDGs活動

ペール委員会ではペール缶の特長を再認識するとともに、具体的な成果に結び付けるSDGs活動を継続しています。

## 1 ペール缶のSDGsを啓発するポスターの作製

各社の従業員の啓発用に、ペール缶の特長と有用性を再認識する大型ポスターを作成しました。ペール缶製造各社で社内に掲示し、従業員のSDGsへの意識の向上に役立てています。(余部が多少ありますので、ご入用の方は事務局までお問合せください。)

## 2 ペール缶の用語集の改訂

ドラム缶工業会のホームページの「鋼製ペールの特長」の中で説明している用語集(2015年第二版発行、全17ページ251項目)の改訂作業を進めています。2020年に25年ぶりに改定したJIS Z 1620とその間の技術の進展や安全性への考慮、市場の要求や実際の取引慣行、SDGs活動にも鑑み、ペール缶をより身近な容器として使いやすくするために分かりやすい解説に努めています。3月頃には作業を終え、ホームページに掲載する予定です。

鋼製ペール用語		目次	
分類	No.	用語	頁
型	1-1	突縁取外式	1
	1-2	テーパペール	1
	1-3	スタカコタイプ	1
	1-4	ラックタイプ	1
	1-5	ハバコタイプ	1
	1-6	突縁取外式	1
	1-7	突縁のタイプ	1
	1-8	スリットペール	1
	1-9	ネックタイプ	1
	1-10	ラック突縁	2
部	2-1	ハバコ突縁	2
	2-2	ハバコ突縁	2
	2-3	突縁	2
	2-4	口縁	2
	2-5	口縁カバー	2
	2-6	ボリペロ	2
	2-7	保潔ふた	2
	2-8	保潔フタ	2
	2-9	鋼製フタ	2
	2-10	鋼製金網タイプカストムフタ	2
機	3-1	鋼製	3
	3-2	インフレーション	3
	3-3	鉄板	3
	3-4	スリット	3
	3-5	鋼板(ワイル)	3
	3-6	鋼板(シート)	3
	3-7	鋼製取付穴鋼板及び鋼管	3
	3-8	鋼製取付穴鋼板及び鋼管	3
	3-9	鋼製板	3
	3-10	ステンレス鋼板	3
造	4-1	鋼製	4
	4-2	鋼製	4
	4-3	鋼製印刷機	4
	4-4	鋼製フィルム	4
	4-5	鋼製	4
	4-6	IPS板	4
	4-7	鋼製	4
	4-8	鋼製	4
	4-9	鋼製	4
	4-10	鋼製	4

用語集



ペール缶SDGs啓発ポスター

## 3 具体的な成果に結び付ける取り組み(取引先様との共創も含め)

SDGsすなわち持続可能な社会への貢献を目指す活動の中で、特に資源の有効活用(リデュース)と出荷時の備品の再使用(リユース)について検討を進めています。中には仕入れ先様やお客様にご提案し、一緒に取り組んでいただきたい項目もあり、現在、ペール委員会の内部で検討しています。効果はわずかなものかもしれませんが、できることから少しでも進めていきたいと考えており、以下はその一例です。

- ① ペール缶出荷時の天板用梱包箱の回収とリユース率の向上
- ② テーパー缶の出荷時に同梱する仮天板の回収とリユース率の向上
- ③ ペール缶外面の金属印刷の微細な不良の救済によるリジェクト率の低減

# ICDM役員会を開催しました

## 1 ドラム缶工業会の国際活動

ドラム缶工業会の活動の一つに国際連携があります。ドラム缶は国連が決めた危険物用の産業容器であり、基本的なペックはISOに定められていて世界共通です。日本のドラム缶工業会 (JSDA) は国際鋼製ドラム製造業者連合会 (ICDM) に所属し、国際組織の一員として、鋼製ドラムの規格国際標準化、試験方法の統一、環境問題への対応などの問題を討議しています。

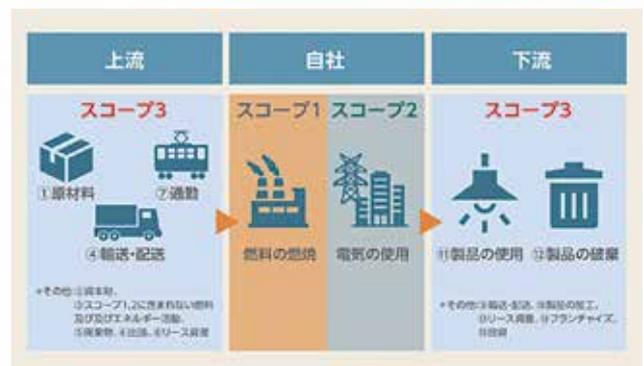
## 2 ICDM役員会

2022年は12月13日にICDMの役員会がオンラインで開催され、ドラム缶工業会 (JSDA) はアジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会 (AOSD) の会長国として、米国ドラム缶工業会 (ISDI)、欧州ドラム缶工業会 (SEFA) と世界3極で諸課題につき意見交換を行いました。



## 3 GHGプロトコルのスコープ3

その中で、各国に共通した現在の最大の課題とされたのは地球環境問題です。これまでも、鋼製ドラム缶は3R (リデュース・リユース・リサイクル) において有用性の高い容器であることを皆様にご理解いただけてきましたが、次のステップでは2050年のカーボンニュートラルに向け、GHG (Greenhouse Gas) プロトコルに定められた温室効果ガスの排出をいかに削減していくかを検討し実行していこうとしています。特にスコープ3へはICDMとして世界3極で共通のレスポンスを表明することを考えています。



出典：環境省グリーン・バリューチェーンプラットフォーム

米国ドラム缶工業会はAISI (米国鉄鋼連盟) のサステナビリティ委員会や、持続可能な購買に関する協議会の専門家チームとの連携を深め、また欧州ドラム缶工業会は2022年11月にEU議会での「容器と容器の廃棄に関する規定の見直し」で提案されたリユース可能な容器の比率の引き上げ、また欧州の鉄鋼メーカーのグリーンスチールの定義と動向とその活用をフォローしています。

これらはいずれも決して簡単な問題ではありませんが、今回の役員会の結果、3極の事務局が連携して検討を継続し議論を深めていくことになりました。



ICDM役員会 (オンライン) の様子



会議資料  
[左からAOSD (JSDA)、ISDI、SEFA]

# 2022年(1月~12月) 出荷実績

2022年の200L缶の出荷は、前年に比べ6.4%減、918千本減の13,347千本となりました。

用途別では、前年に比べ化学向け(6.9%減、768千本減)、石油向け(6.5%減、139千本減)、塗料向け(2.8%減、19千本減)が減少し、食料品向けが増減なし、その他向け(6.4%増、9千本増加)が増加となりました。

ペール缶は前年比2.4%減の18,539千本、中小型缶は同8.0%減の393千本となりました。

## 2022年缶種別・用途別出荷実績

缶種	2022年実績						
	本数 (千本)	前年比 (%)	用途別〔本数(千本)〕				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	13,347	93.6	2,011 (93.5)	10,301 (93.1)	676 (97.2)	210 (100.0)	149 (106.4)
ペール缶	18,539	97.6	10,238 (100.2)	7,321 (94.9)	392 (80.9)	0	588 (99.3)
中小型缶	393	92.0	0	382	0	1	9
亜鉛鉄板缶	349	106.7	0	339	4	3	3
ステンレス缶	36	119.7	0	36	0	0	0
合計	32,663	—	12,249	18,379	1,071	214	750
前年比(%)	—	—	95.3	93.3	96.3	100.1	102.5
構成比(%)	—	—	18.4	73.9	4.8	1.5	1.4

(注) 1. 用途別200L缶、ペール缶の下限( )は前年度比。

2. 前年比ならびに、構成比は、トン数ベース。

3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。

4. 総本数は、32,663,249本。表上数値は四捨五入による差異がある。

(単位:千本)

缶種	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
200L缶	14,041	13,206	13,165	13,717	13,579	13,587	14,101	14,134	13,606	12,618	14,265	13,347
ペール缶	19,744	19,174	19,286	19,188	18,935	19,177	19,681	19,528	18,776	17,434	19,002	18,539
中小型缶	737	626	539	484	479	420	416	493	504	448	427	393
亜鉛鉄板缶	389	373	398	405	356	366	350	386	419	355	327	349
ステンレス缶	38	35	33	37	30	40	34	39	33	28	30	36
合計	34,949	33,413	33,421	33,831	33,379	33,590	34,583	34,580	33,337	30,882	34,052	32,663

### 編集後記

ドラム缶工業会は2020年4月からリモートで行っていた活動を、昨年6月から対面とリモートの併用で行っています。業務のDX化も進展したと思います。この3年間は環境対応を学び、貢献していく活動に重点を置いています。今号はその模様を10ページにわたりご紹介させていただきました。

### 会員

#### 〈正会員〉

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株) 長尾製缶所
- 日鉄ドラム(株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本工作所

#### 〈準会員〉

- 森島金属工業(株)

#### 〈賛助会員〉

- エノモト工業(株)
- (株) 大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株) 水上工作所

### ドラム缶工業会

〒103-0025  
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10  
(鉄鋼会館6階)  
TEL 03-3669-5141  
FAX 03-3669-2969  
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.86 (2023年1月20日発行)

発行人 ドラム缶工業会  
専務理事 事務局長 坂元 信之

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせください。  
本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。